

# 2011 三遠南信

San-En-Nanshin Travelogues

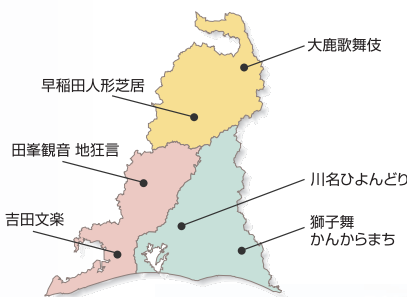
Vol. 4

## 紀行

### 地域各地に根ざして 受け継がれし伝統芸能の数々 農村歌舞伎、浄瑠璃、獅子舞。

三遠南信地域は古くから、東西文化の交流地点であり、郷土に伝わる神事や村祭に江戸や京・大阪からの芸能文化が取り入れられ、独自の郷土芸能として現在まで多く受け継がれています。

時代の変遷とともに途絶えた郷土芸能も、地元有志による保存会が結成され、復活したものも多くあります。地域住民や子どもたちが熱演する伝統芸の数々をぜひ間近でご覧ください。



三遠南信(さんえんなんしん)とは、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域の総称です。

**多彩な表情の文楽人形が  
三業一体となって操り演じる  
叙情あふれる浄瑠璃の世界**

◎吉田文楽 飽海人形浄瑠璃  
(豊橋市)

「文楽」は能楽「歌舞伎」とともに世界無形遺産に登録された伝統芸能であり、「三業」と言われる「義太夫」「三味線」「人形遣い」によるわが国を代表する人形劇です。江戸時代前期に竹本義太夫が「人形浄瑠璃」を成立させ、京都の公家が都落ちをして吉田(飽海)の地に伝えたと言われます。



明治初頭、植村文楽軒が開く浄瑠璃芝居小屋を文楽座とし、「文楽」という言葉が定着したのです。

戦争で中断しましたが昭和22年に再開し、昭和31年に吉田文楽保存会が結成されて、現在では定期公演も行っています。

お問い合わせ  
吉田文楽保存会  
TEL 0532-146-1327

**三頭獅子が力強く舞う  
掛川大祭 三余興のひとつ  
瓦町の獅子舞 かんからまち**

◎獅子舞 かんからまち(掛川市)



具無形民俗文化財の「獅子舞 かんからまち」は、三年に一度開かれる掛川大祭で、「仁藤の大獅子」「西町の大行列」ともに行われる三余興の一つです。地元では戦国時代から始まったと伝えられています。舞は「道行」「三角舞」「本舞」「戻り」「三角舞」の四部構成で行われ、雌獅子を二頭の雄獅子が奪い合う様子を三頭獅子で表現したもので、他に類のない獅子による側転も見られます。

お問い合わせ  
掛川市商業労働観光課  
TEL 0537-211-149

**五穀豊穡や子孫繁栄を祈る  
大松明と若衆がもみ合う  
火踊りの祭礼は壮観**

◎川名のひよんどり(浜松市)

「川名ひよんどり」は、今からおよそ600年前に芸能が奉納される福満寺薬師堂(通称八日堂)本尊の薬師如来像が作られた応永33年(1426)にはすでに行われていたと考えられています。浜松市北区引佐町にある川名の地で、領主となった井伊家によってこの本尊が制作されました。「ひよんどり」とは、火踊りがなまったものと伝えられており、現在では正月4日



に28番もの祭事が行われます。中でも、夜空を焦がす大松明と若衆の揉み合いが豪壮で印象的です。祭事の終了

間際には、一回で汁ご飯を食すのが通例となっています。

お問い合わせ  
浜松市文化財課  
TEL 053-457-2466

**庶民の娯楽として約三百年  
絶えることなく続く地芝居  
テレビドラマや映画の舞台に**

◎大鹿歌舞伎(大鹿村)



伝統芸能の「大鹿歌舞伎」は、長野県下伊那郡大鹿村に300年以上伝承されている地芝居です。現在では、春(6月)と秋(10月)の年2回の定期公演が行われており、地芝居として全国初の国選択無形民俗文化財にも指定されています。受け継がれた数力所の神社の境内にある舞台で、上演される昔ながらの観劇スタイルと伝統の技に全国から多くのファンが訪れています。また、長野県の文化使節として、ヨーロッパ公演や国立劇場(大阪府)での公演など、国内外でも多くの公演を行っています。

お問い合わせ  
大鹿村教育委員会(大鹿歌舞伎保存会)  
TEL 0265-139-12100  
大鹿村役場 産業建設課  
TEL 0265-139-12001

**願かけから続く奉納地狂言  
近年には子供歌舞伎が  
海外公演・国際交流に活躍**

◎田峯観音地狂言  
(奉納歌舞伎)(設楽町)

今から350年前の江戸時代に、観音様への願かけ奉納が由来すると言われる「田峰観音地狂言」は、毎年2月12日に地元住民を中心に構成される「谷高座」によって奉納されています。昭和54年からは田峰小学校生徒による



「子供歌舞伎」も始まり、平成2年から3年に一度アメリカ公演を行い国際交流にも貢献しています。六幕を演じる「奉納歌舞伎」の他、村人総出て釘を使わず組み上げる竹組みの芝居小屋も一見の価値があります。

お問い合わせ  
設楽町観光協会  
TEL 0536-671000